2025年度第２回ファイナンシャル・プランニング技能検定１級実技試験

Part Ⅰ（2025年９月27日）　　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

●設　例●

Ａさん（71歳）は、食料品製造業を営むＸ株式会社（非上場企業）の創業社長である。Ｘ社は、Ａさんが40年前に設立して以来、ロングセラー商品を中心に業容を拡大させてきた。しかし、近年はヒット商品に恵まれず、売上が減少し、前期は創業以来初めて赤字に転落した。今期も業績が厳しく、２期連続での赤字決算となる見込みである。過去の内部留保が多く、また赤字額が少ないため、今のところ経営に対する影響は出ていない。

【事業承継について】

Ａさんは、新たに開発した商品の発売を機に社長職を辞し、Ｘ社を去る決意をした。今後は、希望退職者を募り、人員の削減を図るなど会社の体質を強化したうえで、専務取締役の長男Ｃさん（44歳）に事業を承継し、長男Ｃさんを含む若手社員にＸ社を託すつもりである。大手食品メーカーでの勤務を経てＸ社に入社した長男Ｃさんは、10年前に専務取締役に就任し、Ａさんを補佐してきた。取引先・従業員からの信頼は厚く、後継者としての資質に問題はない。

Ｘ社株式の承継方法について、Ａさんは贈与による移転を検討しているが、現時点では明確な考えはなく、長男Ｃさんと相談して実行する予定である。

Ａさんは、今期も赤字が見込まれるため、Ｘ社が黒字に転ずるまでは、毎年行っていた配当をゼロにしたいと思っているが、長男ＣさんにＸ社株式を移転するにあたり、Ｘ社株式の評価上、何か問題となることはないか知りたいと思っている。

【資産承継について】

会社員の二男Ｄさん（39歳）は、妻と子の３人で都内の賃貸マンションで暮らしている。二男Ｄさんは、以前から長男Ｃさんと折り合いが悪く、Ａさんの相続が発生した場合、相当額を相続できなければ納得できないと考えている。

このままでは、遺産分割において争いが起こり、申告期限までに分割ができないおそれがあるため、Ａさんはどのように資産承継をすればよいか頭を悩ませている。

【Ａさんの所有財産の概要】（相続税評価額、土地は小規模宅地等の評価減適用前）

１．現預金	：	１億円（役員退職金は考慮していない）
２．Ｘ社株式	：	２億円
３．自宅		
①土地（360㎡）	：	１億5,000万円
②建物（二世帯住宅）	：	5,000万円
４．Ｘ社本社土地（400㎡）	：	１億円
５．Ｘ社本社建物	：	5,000万円（年間家賃800万円）
合計	：	６億5,000万円

※Ａさんの相続に係る相続税額は、約１億9,500万円（配偶者の税額軽減・小規模宅地等の評価減適用前）と見積もられている。

【Ｘ社の概要】

資本金：5,000万円　会社規模：大会社　従業員数：120人　配当：毎期25円／株
売上高：21億円　経常利益：▲1,000万円　余剰資金：３億円
株主構成（発行済株式総数10万株）：Ａさん100％
株式の相続税評価額：類似業種比準価額2,000円／株、純資産価額5,000円／株
※今期の損失金額は約300万円と、赤字幅の縮小が見込まれている。

（注）設例に関し、詳細な計算を行う必要はない。

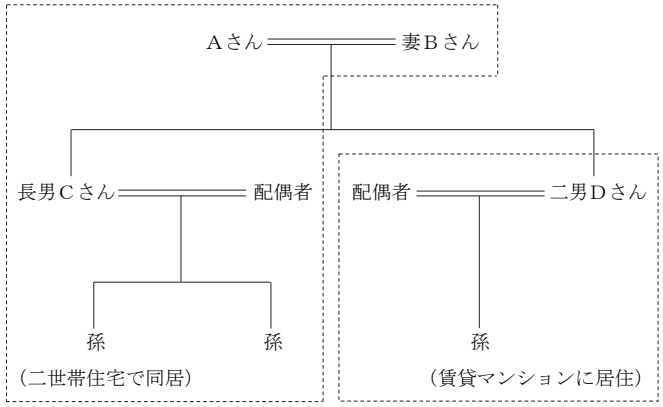
検討のポイント

●設例の顧客の相談内容および問題点として、どのようなことが考えられるか。
●それらの相談内容および問題点を解決するために、どのような提案・方策が考えられるか。
●それらの方策（解決策）のなかで、何を顧客に提案するか。その理由・留意点は何か。
●ＦＰと職業倫理について、どのようなことが考えられるか。

【Ａさんの家族構成（推定相続人）】

妻Ｂさん　（68歳）：専業主婦。Ａさん、長男Ｃさん家族と二世帯住宅に居住している。
長男Ｃさん（44歳）：Ｘ社専務取締役。妻と子２人（12歳・９歳）の４人で二世帯住宅に居住している。
二男Ｄさん（39歳）：会社員。妻と子（７歳）の３人で賃貸マンションに居住している。

【親族関係図】



（メモ余白）